

リーンシックスシグマ(LSS)ガイドンスのご案内

リーンシックスシグマ(LSS)とは

LSS(Lean Six Sigma)はリーン(ムダ取り・効率化)とシックスシグマ(品質向上活動)を組み合わせた改善手法のグローバル・スタンダードです。2011年にISO13053「プロセス改善における定量的方法 -シックスシグマ-」として国際規格化され、組織的に運用できる課題解決の方法論として、世界規模で広がりをみせています。



ガイドンスの概要

ガイドンスでは、LSSに関する基本知識を解説し、特に医療現場における具体的な活用事例をご紹介します。

- 日時(予定):2020年8月5日(水)
- 時間(予定):XX時~XX時(2時間)
- 会場(未定)もしくはWeb実施

1. リーンシックスシグマとは

- ◆ リーンシックスシグマの全体像
- ◆ リーンとシックスシグマの歴史
- ◆ 基本的な考え方

2. リーンシックスシグマの実践

- ◆ 課題解決の方法論「DMAIC」
- ◆ プロジェクト活動チームの役割

3. リーンシックスシグマの活用事例

- ◆ ISO国際規格について
- ◆ 医療機関等ヘルスケア業界の動向と活用事例

ガイドンスのポイント

1. LSSの基本的な考え方

- ✓ 顧客志向
- ✓ プロセス志向
- ✓ データ重視
- ✓ トップダウン
- ✓ 改善のステップ



2. ビジネス課題解決アプローチ「DMAIC」

- ✓ Define(課題定義)
- ✓ Measure(現状把握)
- ✓ Analyze(原因分析)
- ✓ Improve(改善検討)
- ✓ Control(管理定着)



3. なぜビジネスの現場で使われるのか

- ✓ 取り組むべき課題を正しく設定する
- ✓ 部門横断チームで取り組む
- ✓ 組織内の役割と責任を明確化する
- ✓ 事実とデータから仮説を立てる
- ✓ 課題解決の共通言語を作る

